

第 16 回比較防災学ワークショップ

第 27 回第 4 回災害対応研究会公開シンポジウム

「国難と都市災害：来るべき国難にどのように備えるべきか-IV」

日時 2016 年 1 月 21 日（木）14:00～16:30 — 1 月 22 日（金）10:00～16:00

場所 神戸国際会議場 5 階 501 号室

公開シンポジウム（1 日目）「何が明らかになったか」について研究代表者が語る

（司会：越山） 第 16 回比較防災学ワークショップ、平成 27 年度第 4 回災害対応研究会公開シンポジウム、「国難と都市災害：来るべき国難にどのように備えるべきか-IV」は 4 年目、4 回目を迎えました。今回の司会を務めさせていただきます、関西大学の越山と申します。よろしくお願いいたします。

本シンポジウムは今日と明日、2 日間にわたって行われます。本日は『何が明らかになったか』について研究代表者が語る」というタイトルですので、二人の研究代表者に、プロジェクトでどのようなことが明らかになったのかも含めて、言いたいことを言っていたく会になると思います。

最初に、関西大学社会安全研究センター長、河田先生から開会の挨拶を頂き、そのまま基調講演に入っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

開会挨拶

河田 恵昭（関西大学社会安全研究センター長・教授）

この研究会は、現在進んでいる二つの大きな研究の代表者である林春男先生と私が、その分担者を巻き込んで、成果を年 1 回発表させていただくという趣旨でやってまいりました。今日は林先生と私が、何が分かったかをご紹介します、明日は分担者がそれぞれ紹介するという形になっています。両日、よろしくお願いいたします。

田村先生のご厚意で、入り口で配られた『ワークショップでつくる防災戦略』という本はプレゼントです。ワークショップはとても大切なのですが、ファシリテーターになっていただくのはなかなか難しいので、これを読んでいただいて、知識をきちんと持っていたらこうという意図で、田村先生はお配りになったのだと思います。

この研究会は、来年もこの形で開催することは間違いありません。研究者である以上、新しいことを皆さんに知っていただかなければいけないので、少なくとも、林先生と私の二人が研究者である限りは、どこかからお金を取ってきて、この研究会を続けるということだけはお約束できると思います。

